

OKINAWA

ARTS COUNCIL

沖縄アーツカウンシル

平成31年度

沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業

支援事業事例集

目次

03 ごあいさつ

04 沖縄アーツカウンシルとは

11 平成31年度沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業
支援事業紹介

①文化芸術活動の継続・強化に向けた運営上の課題解決を図る取り組み

- 12 沖縄出版協会
- 14 古見公民館
- 16 一般社団法人おきなわ芸術文化の箱
- 18 株式会社 クランク
- 20 一般社団法人 すでいる
- 22 一般社団法人 創作芸団レキオス
- 24 一般社団法人 与那国フォーラム
- 26 特定非営利活動法人 ハマスーキ

②文化芸術の享受者の拡大に資する魅力的な創造発信を行う取り組み

- 28 沖縄県三線製作事業協同組合
- 30 一般社団法人 エーシーオー沖縄
- 32 株式会社 ククルビジョン
- 34 特定非営利活動法人 琉球交響楽団
- 36 RYUKYU カマ Do ! プロジェクト

③文化芸術資源を活用して地域の諸課題の解決を促進する取り組み

- 38 株式会社 TEAM SPOT JUMBLE
- 40 川平公民館
- 42 一般社団法人 琉球フィルハーモニック
- 44 まぶいぐみ実行委員会
- 46 医療とアートを考える会
- 48 株式会社 シネマ沖縄
- 50 公益財団法人 沖縄県女師・一高女ひめゆり平和祈念財団立
ひめゆり平和祈念資料館附属 ひめゆり平和研究所
- 52 特定非営利活動法人 地域サポートわかさ

54 そのほかの取り組み

ごあいさつ



公益財団法人 沖縄県文化振興会
理事長 又 吉 民 人

はいさい ぐすーよー ちゅーうがなびら。

「平成 31 年度沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業 支援事業事例集」を発刊するにあたり、ごあいさつを申し上げます。

沖縄文化の魅力は、その多彩さにあります。古くを受け継ぐと同時に、新しきを拒まず、継承と創造を積み重ねてきたことで、今日の豊かな文化環境が形成されてきました。私たちはウヤファーフジ（ご先祖様）の英知^{たが}に学びつつ、時勢に違わぬ方法を模索していかなければなりません。

本事業は、沖縄県文化振興会が県から委託を受けて実施する補助事業で、今年度で 3 年目を迎えます。これまでに、のべ 56 件の魅力的な事業を採択し、支援して参りました。

今年度もバラエティに富む事業の応募が寄せられ、アドバイザーボードによる忌憚のない議論により、21 件の事業を採択いたしました。そして、当会へプログラムオフィサーという文化芸術の専門家を配置した「アーツカウンシル機能」を導入し、事業者の皆さまに寄り添うハンズオン支援や評価、相談業務に取り組んでいます。

これらの素晴らしい事例を紹介し、広く発信していくこともまた私どもの責務と考え、本事例集を発行するに至りました。ご一読を賜り、沖縄文化の力強さとその多様性を感じていただければ幸いに存じます。

結びに、ご関係者の皆さまに心から感謝と敬意を申し上げご挨拶いたします。

沖縄アーツカウンシルとは

About Okinawa Arts Council

沖縄は、古来、アジア諸国との交易を通じて多様な文化芸術を受け入れ、沖縄の精神的、文化的風土と融合させることで、亜熱帯の海に囲まれた美しい島々に、独特の文化芸術を育んできました。

文化芸術は、長い歴史の過程で積み上げられ、伝えられてきた英知の結晶であり、人々が心豊かに生き、活力のある社会を築き、世界と友好を深めていく基盤として、本県の発展に欠かせないものです。(沖縄県文化芸術振興条例前文より)

こうした認識に立ち、沖縄県は、本県の多様で豊かな文化資源を活用した文化芸術活動の持続的発展を図ることを目的に、沖縄版アーツカウンシル機能を導入した「沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業」を実施しています。沖縄県文化振興会は、沖縄県から委託を受け、県内の文化芸術団体に支援を行っています。

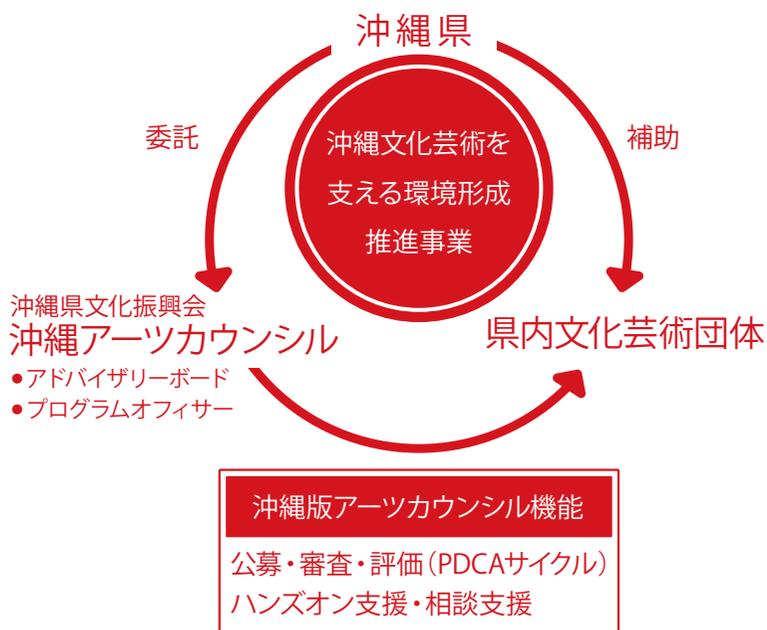
沖縄アーツカウンシルは、文化芸術分野の専門家で構成されるアドバイザリーボードを設置し、寄り添い型のハンズオン支援を行うプログラムオフィサーを配置しています。アドバイザリーボードは、事業の選定及び評価・検証、プログラムオフィサーは文化芸術団体へのハンズオン支援や相談業務のほか、県内の文化芸術の活動状況を踏まえた助成制度の構築を行っています。

Since ancient times, Okinawa has been exposed to various cultures by trading with other Asian countries. Okinawa has cherished the arts and culture that are unique to these beautiful subtropical islands by assimilating those of other Asian cultures with the ethos and cultural climate of Okinawa.

Arts and culture are the result of ancestors' wisdom gathered over a long period of time. In order to make a spiritually affluent lifestyle for the people here, to create a vibrant society, and to build friendships with the rest of the world, it is essential that Okinawa Prefecture further develops its arts and culture into the future (excerpt from the preamble to the Okinawa Arts and Culture Promotion Ordinance).

In recognition of the above, and utilizing the Arts Council Okinawa project, we aim to implement the project to establish an environment to support Okinawan arts and culture in order to promote the continued development of artistic and cultural activities, using Okinawa's rich and diverse culture. Designated by the Okinawa Prefectural Government, the project aids art- and culture-related organizations in Okinawa by providing financial support.

In consultation with an advisory board consisting of a group of experts in the field, the Okinawa Arts Council provides hands-on support through program officers. The advisory board evaluates and approves programs. Along with providing hands-on support and playing an advisory role for each program, program officers help establish various grant programs depending on each arts and culture activity.



<関連する条例・施策> < Related Accordance and Measures >

- ・ 沖縄県文化振興条例
Okinawa Prefectural Foundation for Cultural Promotion Ordinance
<http://www.pref.okinawa.jp/site/bunka-sports/bunka/140926.html>
- ・ 沖縄 21 世紀ビジョン
Okinawa 21st Century Vision Plan
<http://www.pref.okinawa.jp/21vision/>
- ・ 沖縄県文化観光スポーツ部文化振興課 施策概要
Outline of measures by the Culture Promotion Division, Department of Culture, Tourism and Sports,
Okinawa Prefectural Government
<http://www.pref.okinawa.jp/site/bunka-sports/bunka/kikaku/2018shingikai.html>

事業概要

沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業では、県内文化関係団体が行う、3つの下記取り組みに対して、県内より広く事業を公募しました。

①文化芸術活動の継続・強化に向けた運営上の課題解決を図る取り組み

- *文化芸術活動の持続化に向けて、事業の企画や財務管理を行う事務局体制の構築を図る取り組み
- *文化芸術を支える担い手の育成・継承に関する取り組み
- *文化芸術団体や人材の組織化を図る取り組み など

②文化芸術の享受者の拡大に資する魅力的な創造発信を行う取り組み

- *認知度の向上やリピーターの獲得に向けた体系的な計画を有する文化芸術事業
- *外部の専門家・団体などと協働して行う意欲的かつ主体的な文化芸術事業
- *創作人材の育成やアーティスト交流を伴う魅力ある文化芸術事業 など

③文化芸術資源を活用して地域の諸課題の解決を促進する取り組み

- *県内の民間事業所（観光、まちづくり、産業その他の関連分野）と連携して行う文化芸術事業
- *教育機関（各種学校、図書館、博物館、公民館など）と連携して行う文化芸術事業
- *異なる背景を持つ人々間の新たなコミュニケーションの創出拡大に向けて、関係機関（福祉、国際交流、その他の関連分野）と連携して行う文化芸術事業 など

補助金額

①② 上限 500 万円 ③ 上限 1000 万円

補助率

1 年目 = 90% 2 年目 = 80% 3 年目 = 70%

(補助対象経費に補助率を乗じた額で、それぞれ上限額まで支給します。)

OKINAWA ARTS COUNCIL

沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業・年間スケジュール

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
●事業説明会 ●個別相談会										●公募開始		
	●審査会	●交付決定 / 事業開始	●概算払い			●中間確認			●事業終了		●報告会	
												●補助金交付
<p>「ぶんかとはじょきんそうだん会」 沖縄本島：毎月20日 / 石垣島・宮古島：2～3ヶ月に1回</p>												

※例年、上記のようなスケジュールとなっておりますが、変更になる可能性がございますので、最新の情報につきましては、お問い合わせください。

平成 31 年度支援事業一覧

①文化芸術活動の継続・強化に向けた運営上の課題解決を図る取り組み

- 「**沖縄の出版文化を通じた東アジアへの事業展開の推進**」 沖縄出版協会
東アジア出版人との交流や国際ブックフェアへの参加などを通じて、沖縄独自の文化や魅力を発信する県産本の東アジアへの事業展開を推進。
- 「**映像・記録作成資料を活用した地域文化の次世代育成事業**」 古見公民館
年中行事「結願祭」の地謡の継承が危ぶまれる中、祭りで歌われる唄の資料整理と採譜により、教習の仕組みと体制づくりに取り組む。
- 「**劇場を活用した創造交流基盤形成事業**」 一般社団法人 おきなわ芸術文化の箱
小劇場「アトリエ銘苺ベース」を拠点に、舞台人材の育成、高校演劇への支援、企業連携のほか、国内外のネットワーク構築に取り組む。
- 「**沖縄とアジアを結ぶ音楽ネットワーク構築事業**」 株式会社 クランク
アジアとの音楽ネットワーク構築推進を目的に「Trans Asia Music Meeting」を開催し、アジアにおける音楽プラットフォームを形成。
- 「**『平和と鎮魂』をテーマとするネットワーク型国際芸術祭へ向けたアーティスト交流事業**」
一般社団法人 すでいる
「東アジア平和アートプロジェクト」を構築し、沖縄、済州、台湾の美術家たちによる平和と鎮魂をテーマにした国際芸術祭を展開。
- 「**創作エイサー連携強化・普及活動及び自走化に向けた組織の強化事業**」
一般社団法人 創作芸団レキオス
「創作エイサー協議会」の運営と組織強化を図りながら、チョンダラー、琉球木遣り歌など民俗芸能の普及発展を目的に民俗芸能鑑賞作品の制作に取り組む。
- 「**与那国民俗芸能の継承に向けた調査、及び人材育成計画策定事業**」
一般社団法人 与那国フォーラム
県内外の民俗芸能の継承事例を調査するとともに、八重山民俗芸能関係者や、与那国郷友会との連携強化を図り、与那国民俗芸能の関係者の人材育成計画を策定する取り組み。
- 「**沖縄の海人文化の保存・継承活動を核にしたまちづくり事業を持続的に発展させるための組織強化事業**」 特定非営利活動法人 ハマスーキ
古くから「海人のまち」として知られる糸満における海人文化の保存継承活動を核にしたまちづくりに取り組むため、後継者の育成や事業開発を行う。

②文化芸術の享受者の拡大に資する魅力的な創造発信を行う取り組み

- 「三線文化の普及連携事業」 沖縄県三線製作事業協同組合
沖縄の歴史と文化に育まれた楽器である三線とその文化の普及を目指し、企業や演奏家などと連携して、三線文化普及事業の開発と拠点形成を図る取り組み。
- 「わした島子どもアート」 一般社団法人 エーシーオー沖縄
国際児童・青少年演劇フェスティバルの資源を生かし、子どもたちが舞台芸術に触れる機会を創出すべく、地域コーディネーターとともに離島などで舞台公演に取り組む。
- 「映画を通じて異文化理解を深め沖縄の才能を育てる映画祭〈KIFFO〉の長期運営基盤づくりと、自発的に行動する人を育てるワークショップ関連事業」 株式会社 ククルビジョン
映画を通じた異文化理解や他者理解を促す、ボランティア向け講座や子ども審査員による動画コンテストのほか、映画人材育成に取り組む。
- 「まちなかコンサートを活用した芸術発信事業 ～宮古島まるごとミュージック！？～」
特定非営利活動法人 琉球交響楽団
幅広い層に向けたクラシック鑑賞機会づくりに取り組むほか、楽団員の広報や経営感覚を高める研修会を実施。
- 「琉球料理をツールとして、沖縄の魅力を国内外に発信できる子どもたちを育成するプロジェクト」 RYUKYU カマ Do! プロジェクト
沖縄県内の子どもを対象にした琉球料理をツールに沖縄の歴史や文化を伝える学びの場「カマ Do! 塾」の継続開催と経営基盤の安定化をめざす。

3 文化芸術資源を活用して地域の諸課題の解決を促進する取り組み

- 「社会的課題に向き合う演劇ワークショッププログラム研究・開発」
株式会社 TEAM SPOT JUMBLE
さまざまな社会的課題に合わせた「演劇ワークショップ」プログラムの調査、研究、開発と相談窓口の開設や体験会などの開催によりその普及を図る。
- 「川平村の祭事を支える古謡等の保存と地域文化の継承に向けた環境整備事業」川平公民館
年間 26 回の祭事を担う川平公民館は、古謡の継承者の育成を目的に、教本の改版、音源のデジタル化などに取り組むほか、伝習や勉強会を開催する。
- 「ジュニアジャズオーケストラによる子どもの居場所づくり」
一般社団法人 琉球フィルハーモニック
「ジュニアジャズオーケストラ那覇ウエスト」の自走化に向け、パートナーシップとサポート体制の確立をめざす。
- 「祭祀を記録した写真による地域の精神文化創出に資する事業」まぶいぐみ実行委員会
写真の意義である「歴史の記録」や「現場の眼」に着目。写真家が撮影した祭祀や民俗芸能の写真展やシンポジウムを開催する。
- 「患者はアーティストになりうるか、職員はどうだ。～県北からアートで医療を後押しする～」
医療とアートを考える会
県内の精神科作業療法の現場で生まれたアート作品をアーカイブし、価値を問う展示会を定期開催。社会に発信するセンター機能構築をめざす。
- 「地域の 8mm 映像オープンデータ実証実験によるデジタルアーカイブ・ネットワーク推進事業」
株式会社 シネマ沖縄
県内で収集した 8mm フィルムを公開する仕組みの効率化、利活用に向けた方法を確立。県外の収集団体とのネットワークを構築。
- 「沖縄戦・ひめゆり学徒隊の歴史を海外に伝える展示プロジェクト」公益財団法人 沖縄県女師・一高女ひめゆり平和祈念財団立 ひめゆり平和祈念資料館附属 ひめゆり平和研究所
沖縄戦・ひめゆり学徒隊の歴史を海外に伝える展示会開催を目指し、ハワイでの調査や若者向けワークショップの開発などに取り組む。
- 「移動式屋台型公民館を活用した地域住民主体の「つどう・まなぶ・むすぶ」創造拠点創出事業」
特定非営利活動法人 地域サポートわかさ
地域の諸課題に住民自ら行動する機運を醸成するため、パーラー公民館の活動を実施。那覇市曙地区と牧志地区の 2 地域で展開する。

チーフプログラムオフィサー

林 恭子 (はやし やすこ)

青森県津軽生まれ。沖縄の風土と文化に魅了され、2003年から那覇市在住。那覇市内で劇場の立ち上げと運営に携わり、映画の宣伝や離島上映会のほか、音楽公演、演劇ワークショップ、市民向け講座の企画制作などを担当。その後、新聞社で取材・執筆・イベントづくり、舞台公演の企画制作に関わる。遠い目標は沖縄と津軽の文化の融合。

樋口 貞幸 (ひぐち さだゆき)

NPO 法人アート NPO リンクの立ち上げに参加、2015年度まで同法人常務理事兼事務局長として務める。現在、オフィス・へなちよこ代表、NAMURA ART MEETING '04-'34 事務局、NPO 法人淡路島アートセンター監事、大阪市立大学都市研究プラザ特別研究員、大阪でアーツカウンシルを考える会メンバー。

プログラムオフィサー

麻生 佐矢香 (あさお さやか)

那覇市出身、在住。沖縄県立芸術大学 在学中に多くの展覧会に参加。絵本作家の夫を支えつつ、3人の子どもたちと日々奮闘中。2018年までは中学校で美術講師として勤務。出産を機にお休みするも美術に関わる仕事がしたいと活動。自身の制作は最近旧姓の「外間」で活動を再開しようと考えている。

芦立 さやか (あしだて さやか)

北海道札幌市出身。アートスペースや芸術祭などの現場で美術展の企画制作に携わってきた後、2010年に文化庁新進芸術家海外研修制度でニューヨークに滞在し、アーティスト・イン・レジデンスやアーティストのスタジオのリサーチを行う。2011年より、京都市でアーティストのアトリエや発表の機会をつくる支援団体「東山 アーティスツ・プレイスメント・サービス (HAPS)」の事務局で勤務。事業に関わる中で広報、助成金申請など幅広く経験。

島袋 弥生 (しまぶくろ やよい)

広報や PR、イベント運営などのプロモーション業務や課題整理のための調査や分析に携わるほか、ウェブメディアなどでの執筆も経験。人が集う「場づくり」を創造する空間デザインにおいても活動する。

平岡 あみ (ひらおか あみ)

与那原町在住。組踊に興味を抱いたことをきっかけに、大学卒業後から沖縄へ。現在、大学院で観光学の研究をしたり、沖縄県青年団協議会の事務局をしたり、イベントスペースの企画をしたりしている。

真栄城 桃子 (まえしろ ももこ)

読谷村出身西原町在住。大学時代にミュージカルに出会い、何らかの形で文化と芸術を仕事にしたいと思い活動。2019年3月までの4年間は西原町教育委員会で、さわふじ未来ホールの自主事業の企画運営などに携わる。

*アドバイザーボードは非公開です。

沖縄アーツカウンシル

平成 31 年度沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業

支援事業紹介

① 運営上の課題解決

② 文化芸術の享受者拡大

③ 地域の諸課題の解決

沖縄の出版文化を通じた 東アジアへの事業展開の推進

沖縄出版協会

住 所 糸満市西崎町 4-21-5 (東洋企画印刷内)
メール edit-gg@flute.ocn.ne.jp
URL http://okipa.jp/

地道な取り組みによる東アジアへの パイプづくりと販路開拓

沖縄県の出版活動は他県に比較してとてもユニークで、出版ジャンルも伝統料理や行事、歴史、文化などと幅広く、沖縄の多様な生活文化同様、「沖縄県産本」も非常に多彩である。本補助事業で行っているのは、その多様な沖縄本の出版を東アジアへ発信するとともに、翻訳出版を促していこうという取り組みである。実施する内容は4つ。①東アジア会議の沖縄での開催、②台北国際ブックフェアへの出展、③各出版社の書籍情報を一同にまとめたプラットフォーム(web)の構築、④県産本の販促イベント開催となる。3年間の継続的な取り組みにより、中国や韓国などの東アジアにてつながりが生まれている。



県庁記者クラブにて沖縄出版協会設立の報告

念願の「沖縄出版協会」設立

「沖縄出版協会」の設立が平成31年3月に実現した。県内の出版社の数は、人口比に対して多く存在しているといわれているが、1~2名での運営体制である零細企業がほとんどである。沖縄出版協会を設立するということは、1社では厳しい環境づくりを、複数社が集まって出版業界自ら発信できる環境づくりが可能となるということだ。協会では、取り組みの方向性をしっかりと検討できるように、「企画・事業委員会」、「流通・産業振興協会」、「渉外・広報委員会」の委員会を設け、役割分担を明確にした。早速、委員会で検討した内容により、次年度の県外展開のための事業も計画している。実動にともなった動きとしては、県外物産展、イベントと連動した沖縄本の販売があ



沖縄出版協会設立記念「おきなわ本フェア」でのアナウンサーによる朗読会



「第 27 回東アジア出版人沖縄会議」開催

げられる。このように、県産本の流通のあり方や広報などをどうするか、それぞれの経験から知恵を絞り、実際に稼働していることは、着実に次のステップにつながっている。

プログラムオフィサーのコメント

「沖縄の出版文化を通じた東アジアへの事業展開の推進」は、本補助事業活用から3年目になります。東アジア出版人会議に参加し東アジアへの流通の足掛かりを得たこと、台北国際ブックフェアにて4つの県産本の翻訳出版へつないだこと、沖縄時事出版が担ってきた事務局を沖縄出版協会として稼働させたことは、本事業において非常に大きな成果と感じています。協会設立にともない、事務局には沖縄時事出版の呉屋さんのほか、琉球プロジェクトの仲村渠さん、ジグゼコミュニケーションズの我那覇さんが新たに加わりました。県外への流通の確保など、新しい視点で新たな活動にもつながっている今、東アジアへの地道な活動とあわせて、県外での沖縄本の認知向上など、さらなる躍進を期待しています。(島袋)

活動詳細

- ① 沖縄出版協会の基礎作り
 - ・委員会の運営
- ② 沖縄出版協会としての県産本販促イベント「おきなわ本フェア」の開催
 - ・「第1回 秋の夜長に耳ぐすい」
 - ・「40号だよ！全員集合」
 - ・「フェイクニュースの仕組みを考える」
 - ・「第2回 秋の夜長に耳ぐすい」
 - ・「沖縄語（うちなーぐち）よもやま話」
 - 会場：ジュンク堂書店那覇店
- ③ 東アジア出版人東京会議への参加
- ④ 東アジア出版人沖縄会議の開催
- ⑤ 台北国際ブックフェアへの出展（延期のため代替検討）

① 運営上の課題解決

② 文化芸術の享受者拡大

③ 地域の諸課題の解決

映像・記録作成資料を活用した 地域文化の次世代育成事業

古見公民館

住 所 八重山郡竹富町古見 7-1

芸能継承の危機に立ち上がった 古見の皆さん

西表島東部にある古見(こみ)村落は歴史が古く、多くの年中行事が執り行われてきた。しかし過疎が進むとともに祭事を継続するための人数も減り、特に奉納芸能の地謡は、石垣島に住む古見出身の古老がたったひとりで務めてきて、その方が参加できない時は、近隣地域に応援を頼むこともあった。近年は、他地域では当たり前の行事も行えないこともあるという。

この危機に意を決し、古見の皆さんは芸能継承の仕組み作りに立ち上がった。平成30年度には、主に古見の結願祭(きつがんさい)で奉納される演目「長者」について、地域に残る音声テープや映像資料を大学や研究者の協力を受けてデジタル

化。そこから作成した工工四を冊子にまとめ『西表島古見結願祭工工四 長者』として発行。集落内の各世帯や石垣在古見郷友会の方々、古見小学校などに配布した。

工工四がもたらした地域のつながり

今年度は配布された工工四を活用した教習が本格化した。全校児童8名の古見小学校では、年1回の学習発表会に向けて教職員と地域の皆さんが熱心に指導。5～6年生の3人が地謡、2～4年生の5人が踊りをつとめ、「長者」の中の一節「馬節」の披露が実現した。石垣在古見郷友会でも教習が始まり、今年度から古見の親元を離れて石垣市内に進学した高校生も参加して、「長者」を中心に取り組んでいる。



古見小の児童、郷友会の方、近隣地域の方が力を合わせた地謡



「馬節」は県外でも披露の機会があった
(「第7回全国海洋サミット」会場：東京大学)



古見の住民総出で開かれた行事「むゆりあすびわーら」

今年度、結願祭は人手不足などで開催されなかったが、教習の成果発表の機会を設けたいと、古見公民館主催の行事「むゆりあすびわーら」（古見の言葉で「寄り集まって一緒に遊びましょう」）が行われ「長者」が演じられた。舞台では子どもから大人まで皆が踊り、地謡には、これまでも古見の行事で協力してきた小浜島の奏者に加え、石垣在古見郷友会の方、進学した高校生、そして初めて古見小6年生の児童も参加した。古見では、工工四をきっかけにした新しいつながりが生まれ続けている。

プログラムオフィサーのコメント

学習発表会の直前には、子どもたちが放課後自宅に帰ってから三線の練習をする音色が響いたそうです。これまではなかったことで、それを聴いた近所の方がお宅を訪ね、子どもに教える場面もあったとのこと。発表会本番は大勢の地域の方々が見守り、子どもたちだけで地域の伝統芸能が演じられたことを喜びました。「この工工四さえあれば」。事業の統括をつとめた古見民俗芸能保存会の新盛基代さんは、私たちにくり返しそう話してくれました。基代さんたちの継承にける強い意思が冊子化を実現させ、共鳴した地域の皆さんの思いがつながりを生み、教習はこれからも続いていきます。（林）

活動詳細

①地謡の育成

- ・石垣在古見郷友会との相互練習
- ・古見小学校での「長者」の地謡練習

②工工四の作成、出版

- ・映像、記録資料からの採譜
- ・結願祭にまつわる節を収録した『西表島古見結願祭 工工四 ぶどうり・狂言』の発行

③地域に残る情報の収集

- ・研究者らが所有する音源や写真等の記録媒体の収集

① 運営上の課題解決

② 文化芸術の享受者拡大

③ 地域の諸課題の解決

劇場を活用した創造交流基盤形成事業

一般社団法人 おきなわ芸術文化の箱

住 所 那覇市字銘苅 203
メール oact@m-base.okinawa
URL <http://oact.otonadan.com/oact> / <https://www.m-base.okinawa/>

民間の小劇場を交流拠点に

平成 29 年 7 月に那覇市銘苅にオープンした「アトリエ銘苅ベース」は、80 席ほどの小劇場である。本補助事業を活用し、劇場空間を活かしたさまざまな取り組みで、県内演劇界の可能性を掘り起こしている。提携カンパニーとして県外劇団の公演が月 1 回程度実施されるなど、全国の演劇シーンでも注目の場所となっている。

支える人が集まり、ネットワークが広がる

技術スタッフの育成にも力を入れている。おきなわ芸術文化の箱のスタッフが講師として、機材の基本的な取り扱いや効果の出し方などを実践的にレクチャーする技術講座を開催。どの講座も、

すぐに定員が埋まるほど好評であった。

夏には高校演劇との連携事業があった。県大会の優秀校に劇場を提供。さらに、演劇サマーキャンプには、演劇部の無い高校や遠方の高校からも参加があり、半数近くがアトリエ銘苅ベース 2 階に宿泊。昼食と夕食は参加者全員で食事をとるなど、演劇にどっぷり浸かる濃密な 5 日間の合宿を開催した。講師のサポートのもと、脚本・演出・演技・音響・照明・舞台など、上演に関わる全てを参加者で担当。約 30 名の高校生たちが 2 班にわかれ、ひとつの題材をそれぞれの解釈で作品として作り上げた。

演劇関係者以外の一般の方々とも作品づくりをすることもある。今年度は、終戦直後に首里儀保町に立ち上がった「ニシムイ美術村」を題材とした地域連携劇を上演した。稽古に入る前には、美術



県内制作者ミーティング



高校生演劇サマーキャンプ



地域連携劇「ニシムイ～太陽のキャンパス～」

村をよく知る専門家を迎え、公開勉強会を行うなど、作品に対する理解を深めた。

県内劇団の活動や課題などの調査にも取り組み、舞台制作者の定期ミーティングで報告会を実施、意見交換や情報共有が活発に行われている。着実に、特に若い世代で、連携が広がってきている。昨年度に引き続き、県外の各種ネットワーク会議にも参加。提携カンパニーとして年間11団体の劇団がアトリエ銘苺ベースにて公演を行うなど、成果が表れてきている。

プログラムオフィサーのコメント

団体の強みは、発想の柔軟性と実行力。会議のたびに新しいアイデアが飛び出し、実行に結びつけます。良い意味で劇場っぽくない（親戚の家のような…）雰囲気も皆を惹きつける魅力のひとつ。銘苺ベースから全国へ仕掛けていった全国小劇場ネットワーク会議からは、民間劇場のネットワークを基礎に、マーケットの創造事業に取り組んでいくワーキンググループが立ち上がり、今年度から始めた県内の制作者ミーティングからは、劇場のオフシーズンを活用した劇団や演劇の枠を超えたイベント企画を考える動きも生まれてきました。（真栄城）

活動詳細

- ①実践舞台技術講座（照明・音響・制作）
 - 【照明の基礎を学ぼう】
 - ・「照明機材の種類とその効果・仕込み図を読めるようになるう」
 - ・「仕込み図を読んで仕込む、卓入れ込みからシユートまで」
 - 【音響の基礎を学ぼう】
 - ・「音響さんの仕事って…。アトリエ銘苺ベースで出来る音響あれこれ。」
 - ・「芝居やイベントで使う、SE（サウンドエフェクト）をオリジナルで作りたい、どんな方法があるの？」
 - 【制作・プロデュース勉強会】
 - ・「作品の育て方」を考える
- ②高校演劇との連携と人材育成
 - 「沖縄県高等学校演劇夏季研究大会」の優秀賞受賞校へ劇場提供
 - 沖縄県立向陽高等学校「二点間のキョリ。」
- ③高校生に向けた演劇サマーキャンプ・成果発表会
- ④企業連携
 - 「創業者（設立者）物語」の作品づくり
- ⑤地域連携
 - ・「ニシムイ」公開勉強会
 - ・地域連携劇「ニシムイ～太陽のキャンパス～」公演
- ⑥県内劇団・劇場の実態調査
- ⑦県内制作者定期ミーティング立ち上げ
 - ・「集まれ！沖縄の演劇関係者！【沖縄現代演劇プレスト&ファイヤー】」（全3回）
- ⑧ネットワーク構築
 - ・「全国小劇場ネットワーク会議」
 - 会場：THEATRE E9 KYOTO（京都府）
 - ・「TPAM 国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2020」
 - 会場：横浜市開港記念会館（神奈川県）

① 運営上の課題解決

② 文化芸術の享受者拡大

③ 地域の諸課題の解決

沖縄とアジアを結ぶ音楽ネットワーク構築事業

株式会社 クランク

住 所 那覇市牧志 3-6-10
URL <https://musicokinawa.official.ec/>

県内ミュージシャンの活動の場を広げるために

アジア各国で開催されているショーケース型の音楽フェスは、多くのミュージシャンが次のステップの足掛かりとして参加し、大変な賑わいとなっている。県内で同様の役割を担う場として、クランク（Music from Okinawa と桜坂劇場を運営）が運営する「Sakurazaka ASYLUM」があり、相乗効果を期待して同時期に開催する音楽国際会議「トランス・アジア・ミュージック・ミーティング（以下、TAMM）がある。本補助事業を活用して、ヒアリングなどを通じてネットワークを構築したアジア各国の音楽プロデューサーなど、現場で活躍する方々を招聘し、それぞれの専門性と経験を共有する。さらに県内ミュージシャンなどに対し、プレゼンター

ションやマッチングの場を設定し、具体的な海外進出のためのアドバイスや販路拡大につなげることを狙う。

現場で活躍する音楽プロデューサーたちが沖縄に一同集合！

今年度は夏にも TAMM を開催し、アジアに向けた音楽発信や交流を行う日本人プロデューサーなどを中心としたカンファレンスを実施。共通の課題も多く、より深い議論を展開した。2月22日、23日には「TAMM2020」を開催。これまで構築してきた幅広いネットワークを示す豪華なメンバーが世界各国から沖縄に集まり、具体的な課題について話し合った。

TAMM の回数を重ねることで、沖縄の音楽シー



CAT EXPO（タイ）でブース出展し、TAMM や沖縄のミュージシャンを紹介



参加した LUCfest（台湾）でのネットワーク・ミーティング



TAMM の登壇者たち

ンは少しずつだがアジア各地でも認知されるようになってきた。さらに若手ミュージシャンが積極的に海外のコンペティションに応募する動きも出てきた。アジアの音楽シーンはメジャー、インディーズに関わらず熱を帯びており、自国を出て国際的に活躍するバンドも目立ってきている。そうした中で独自のルートを持つことは非常に重要で、本事業を通して培ってきたネットワークは、大きな可能性を持ち、今後も継続されていく。

プログラムオフィサーのコメント

アジア諸国と距離がとても近く、環境も似ている沖縄。LCC を利用すれば交通費も安く抑えられ、アジアの勢いある新しい表現に出会う場として非常に良い立地です。インターネットで情報を収集することは容易ですが、やはり百聞は一見にしかず。このような場で直接刺激を受け、課題が共有され、興味のきっかけを作ることができるのは、とても重要。実際に ASYLUM や TAMM での出会いから海外展開が決まった県内ミュージシャンが数組出てきたことにより、同世代の若いミュージシャンたちがそれぞれ海外を意識するようなことも。相乗効果によって、県内の音楽表現がより多層的に、活発になっているように思うのは、この事業が大きな役割を担っているといえます。(芦立)

活動詳細

- ① アジア各都市との音楽ネットワーク構築・情報交換・情報共有
 - ・ Playtime Festival (モンゴル)
 - ・ Music Matters (シンガポール)
 - ・ Zandari Festa (韓国)
 - ・ LUCfest (台湾)
 - ・ CAT EXPO (タイ) ほか
- ② 「Trans Asia Music Meeting 2019 -Summer Edition-」開催
会場：桜坂劇場 (那覇市)
- ③ 「Trans Asia Music Meeting 2020」開催
 - ・ トークセッション
 - ・ カンファレンス
 - ・ 1on1 ミーティングなど
 会場：桜坂劇場

① 運営上の課題解決

② 文化芸術の享受者拡大

③ 地域の諸課題の解決

「平和と鎮魂」をテーマとするネットワーク型国際芸術祭 へ向けたアーティスト交流事業

一般社団法人 すでいる

住 所 中頭郡読谷村都屋 431
メール sudeiruinfo@gmail.com
URL <https://www.facebook.com/sudhiruproject/>

アーティストたちが「平和」を考え、 協働する芸術祭

すでいるは「平和と鎮魂」をテーマとする美術展「マブニ・ピースプロジェクト（以下、MPP）」を、激戦地であった糸満市摩文仁を中心に、平成27年から5回開催してきた。参加するのは、世代を超えて集まった沖縄にゆかりのあるアーティストたち。毎回、アーティストたちは普遍的なテーマである「平和」について向き合いながら作品を制作、展示している。本年度は、本島南部の美術部に所属する中高生たち179名が平和をテーマに制作した作品展を同時開催し、幅広い世代が参加した芸術祭となった。

この芸術祭は、キュレーターを立てず、アーティストが自発的に継続してプロジェクトに参加し、

発展していることが特徴だ。回を重ねていく中で、当初から構想していた同様のテーマの国際展開催に向け、本格的に動き始める。本事業は、海を超え、言葉を越えても同じ志で協働していくために、アーティスト間のつながりと信頼という柱を一緒に立てていくためのものだ。

済州、台湾などとのネットワーク構築

今年度は、これまで開催してきた摩文仁地域だけでなく、新基地を建設中の名護市の大浦湾を臨む会場にも巡回。県内北部（やんばる）のアーティスト含め、31組が作品を発表した。普段美術館や作品展などに足を運ぶ機会の少ない現地の子どもたちに作品を観てもらった鑑賞会も実施し、関係性を育んだ。ほかにも、キュレーターのギム・ジュン



名護市内で開催された地元アーティストとのワークショップ



韓国済州島、台湾、沖縄の作家などが集まったシンポジウム



済州島での展覧会オープニング

ギ氏により韓国より招聘されたチェ・ピュンゴン氏の立体作品はやんばるの竹を用いて、沖縄県内で制作された。

また、昨年度に引き続き韓国済州島でも、沖縄、済州、台湾の三か所から集まったアーティストたちの交流展を開催し新たなネットワークを構築した。総括シンポジウムでは、事業報告のほかに台湾からキュレーターのウー・ダークン氏らを招聘し今後の活動について話し合うなど、来年度に県内で開催する国際展に向けて足がかりを作っていた。

プログラムオフィサーのコメント

自分たちの活動について今後どのような方向性でいくのか。本年度、すでにいるの皆さんはその岐路に立たされていたように思います。国際展を開催することは容易ではなく、言葉や価値観の違いの壁は時に大きく感じられました。また、長期活動だからこそ起こるメンバーチェンジや方向性の違いなどによる運営の混乱も垣間見えました。しかし、アーティストたちによる平和を希求する気持ちは強く、新たに発展した関係もありました。一人ひとりのミクロな交流から平和の継続へ。難題を乗り越えようとするアーティストたちの力が、昨今の混沌とした世界でさまざまな人に響くことを願います。(芦立)

活動詳細

- ①海外キュレーターを招聘し、ワークショップやアーティストインレジデンスを開催
 - ・大浦湾ピースアートプロジェクト 2019
 - 会場：名護市久志支所ほか
- ②韓国済州島で済州、台湾、沖縄の3都市をつなぐ展覧会「沖縄・済州 作品交流展 2019」を実施
 - 会場：西帰浦芸術の殿堂 (Seogwipo Art Center) (韓国)
- ③総括シンポジウムの開催
 - 会場：南風原町立南風原文化センター
- ④自主財源確保のための活動
 - ・報告書作成

① 運営上の課題解決

② 文化芸術の享受者拡大

③ 地域の諸課題の解決

創作エイサー連携強化・普及活動及び自走化に向けた組織の強化事業

一般社団法人 創作芸術レキオス

住 所 名護市為又 255-1

URL <https://requios1998.wixsite.com/requiosofficial>

民俗芸能にまつわる歴史を伝える

地域に伝わる芸能をモチーフとして、アクロバットやポップな音楽を加えてエンターテインメント化した創作エイサーは全県的に親しまれており、小中学校、高校の体育祭などでも取り入れられている。青年世代が減少している過疎地域や、都市においては、芸能への参画の機会が限られている地域の子どもたちにとって、地域への愛着を醸成する機会となっている。一方で、視覚的な派手さが優先されることで、エイサーの由来や歴史までは伝えられていないという現状がある。創作エイサーの演舞を運動会で発表するまでで終わらせるのではなく、歴史やさまざまな種類の芸能もあわせて学べるよう、創作エイサーの役割を発展させたいという思いから、本事業の取り組みが始まった。

エイサーの演舞をワークショップで教える指導者の育成については、前身の補助事業「沖縄文化活性化・創造発信支援事業」において行った。本事業では、民俗芸能の歴史を伝えるために、紙芝居を活用したプログラムを開発した。

教育機関の鑑賞会のプログラムに

本年度では特に北部地域において、紙芝居を活用してエイサーの歴史を伝える鑑賞会を保育園や小学校で開催し、児童の少ない学校においては、地域住民も対象として幅広い世代が来場した。先生方や児童からのアンケート結果をもとに、さらなるブラッシュアップへとつなげている。また、県内各地で地域の芸能として伝承されている「国頭捌庫理（くんじゃんさばくい）」の由来を伝える



今年度開発した紙芝居を活用した鑑賞プログラム



子どもたちに人気の獅子舞の演舞



迫力のある創作エイサー

新作も創作し、複数の小学校を合同で鑑賞機会を設けた。

創作芸団レキオスは、今年度で3年目の採択である。自走化に向けて、10校以上の小中学校や市町村教育委員会を回り、開発したプログラムの説明や学校からの要望の聞き取りを行った。活動拠点のある北部地域に根差しつつ、今後も公演活動と結びつけながら取り組みを続けていく。

プログラムオフィサーのコメント

前身の補助事業を含め4年目の担当となる創作芸団レキオス。創作エイサーのチームとして高い技術を持ち、県内で他団体を牽引する存在です。結成から22年目を迎えますが、その勢いを持続させるべく、この数年間で事務局チームを中心に20代・30代の若手へと世代交代をはかっています。平成31年には法人化し、文化庁が行っている「日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業」にも応募して採択されました。今年も、南米・北海道、東京と世界を股にかけて、獅子のごとく飛び回りながら！地元での子どもたちへのワークショップや普及活動も続けているニーセーターは、今後も奮闘を続けます。(平岡)

活動詳細

- ①「琉球民俗芸能作品新シリーズ」制作、発表
会場：大宜味村農村環境改善センター
- ②教育現場と連携した芸術鑑賞会の開催
会場：やまびこ保育園(名護市)、国頭村立辺土名小学校、本部町立崎本部小学校

①運営上の課題解決

②文化芸術の享受者拡大

③地域の諸課題の解決

与那国民俗芸能の継承に向けた調査、及び人材育成計画 策定事業

一般社団法人 与那国フォーラム

住 所 与那国町字与那国 1107
メール yonaguniforum@gmail.com

芸能継承の仕組みの再構築をめざして

与那国島には各集落に、踊座、棒座、狂言座など「座」と呼ばれる芸能継承組織がある。与那国の芸能の継承はこの「座」と、戦後に組織された「与那国民俗芸能伝承保存会」が中心となって行われてきたが、近年は芸能指導者層の高齢化や人口減少などによる後継者不足により、継承が危ぶまれる状況となっている。そこで「DiDi 与那国交流館」の運営にあたる与那国フォーラムは、与那国島の芸能継承の仕組みの再構築を手助けすべく、平成 28 年度から活動してきた。島内や他の島の継承について調査を重ねるとともに、関係者による座談会や勉強会、継承者同士の交流の機会も設けた。竹富島の継承者らの協力を得て実現した「民俗芸能交換会」では、双方の舞踊や狂言を披露し

あうとともに、稽古や舞台進行の段取りなども含め、与那国の継承者が他の島の継承のあり方に間近に触れる貴重な機会となった。

郷友会の力も借りて、島民一体で後継者育成に向かう

継承の計画作りを進める中で、与那国フォーラムが目にしたのは、もう 10 年以上行われていない祭事「シティブディ」だった。舞踊、組踊、狂言など、与那国で最も多くの芸能が演じられるシティブディを復活させ、それに向けた稽古を体系作ることによって継承を円滑に進めてほしい、という考えだ。特に組踊は、現在演じられる機会は皆無で、後継者育成に向けては、与那国を離れても芸能を続けている在沖縄与那国郷友芸能愛好会との話し合い



(公財) 日本離島センター三木剛志広報・調査課長による講演会では、全国の離島の継承事例が紹介された



小浜島結願祭の調査には、与那国出身の高校生（写真手前）も参加



関係者へのヒアリングでさまざまな意見が集まった

の中で、同会の組踊経験者の協力も得られることを確認した。それに先立って今年度すでに、与那国民俗芸能保存会による在沖縄郷友会員に向けた舞踊教習という協働が動き出した。

4年間に渡った調査は報告書にまとめられた。別冊の人材育成計画書は島内の全戸に配布される。「中学生にも伝わるように」との思いから、イラスト入りでわかりやすくまとめた計画書をもとに、島民一体となった芸能継承がスタートする。

プログラムオフィサーのコメント

今年度、小浜島の祭事の調査に与那国出身のふたりの高校生も参加しました。県立南風原高校の郷土文化コースで学び伝統芸能に打ち込むふたりは、与那国で子どもの頃から舞踊や三線に取り組み、親元を離れ進学してからも、在沖縄与那国郷友会総会などの舞台でも演舞しています。若いふたりが他の島の芸能に触れることで、将来の与那国芸能の継承に役立つものを感じ取ってもらいたいと、参加をお願いしました。調査後には「今できることは、故郷のことを忘れず、島へ帰り、島の方たちと一緒に芸能をすること。将来受け継げるよう、今を頑張っていきたいと思います」と、その思いを寄せてくれました。(林)

活動詳細

- ①他地域の祭事の芸能に関する調査
 - ・小浜島結願祭
 - ・波照間島ムシャーマ
 - ・多良間村八月踊り
 - ・埼玉県小鹿野町、愛知県豊田市（「全国地芝居サミット」運営主体）
- ②島内の自治公民館などへのヒアリング
 - ・東自治公民館狂言継承者
 - ・西自治公民館狂言継承者
 - ・嶋仲婦人会会員
 - ・在沖縄与那国郷友芸能愛好会
 - ・在石垣与那国郷友会
- ③与那国民俗芸能の継承の機会提供
 - ・在沖縄与那国郷友会員に向けた教習
- ④離島行政における祭事運営の視点を踏まえた講演会
 - ・「離島における伝統的行事の現状と課題」
- ⑤事業報告書、人材育成計画書作成
 - ・これまでの調査成果と座談会などの議事録をまとめた事業報告書、及び人材育成計画書を作成

①運営上の課題解決

②文化芸術の享受者拡大

③地域の諸課題の解決

沖縄の海人文化の保存・継承活動を核にしたまちづくり 事業を持続的に発展させるための組織強化学業

特定非営利活動法人 ハマスーキ

住 所 糸満市西崎町 1-4-11
メー ル hamasuuki@rav.ocn.ne.jp
URL http://www.hamasuuki.org/home/index.html

糸満の誇りを伝えていくために

古くから「海人（うみんちゅう）のまち」として知られる糸満において、その文化を保全し、次の世代へと受け継いでいく活動をしているのが、「糸満 海人工房・資料館」の管理運営をしている当団体である。ミーカガン（水中ゴーグルの原型といわれている）をはじめとする漁具の展示のほか、イチマンガチ（糸満方言）を交えた歴史講話やサバニの乗船体験などは、地域の小学校や大学の教育プログラムとして活用されてきた実績を持つ。しかし、団体を牽引してきた上原謙理事長をはじめとするメンバーの高齢化により、活動は縮小傾向にある。イチマンガチが堪能で海人と生活を共にしてきた世代は、その経験に裏打ちされた知見と話術によって講話を盛り上げてきた。世代

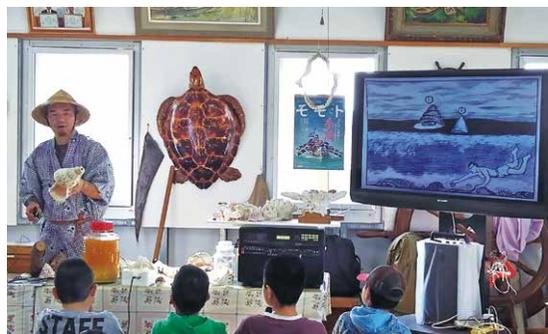
交代にあたっては、継承の手法を再構築していかななくてはならない。本事業では、海人の文化を伝える人材を育成するとともに、その手法を開発する。また、活動を続けていくためにも、収益を得られるプログラムも合わせて創出していく。

若い世代が伝承者になれる、 プログラムづくり

まず、上原謙理事長らによる巧みな講話を若手が引き継ぐために取り組んだのは、かつて海人であった山城久雄氏による鉛筆画を活用した講話プログラムの開発である。当時の漁法を的確に説明しながらも、海人の勇ましさを生々しいほどに表現した絵を見せることで、聴講者はより興味深く講話を聞き、理解することができる。また、実際



古民家を見学しながら、昔の海人の暮らしを学ぶ



鉛筆画を見せながら、漁の方法を説明する



サバニの乗船体験をしているようす

に漁を体験する「パンタタカー体験」や、海人の知恵を生かした「防災キャンプ」、企業などの団体客向けの「ロープワークチームビルディング」などのプログラムを開発・実施した。これらは、健康・福祉・教育・観光といった異分野の専門家からの意見を取り入れながら、今後も改良を重ねていく。

プログラムオフィサーのコメント

糸満 海人工房・資料館には、昨年度までも何度か訪れていました。県外から観光に来た友人たちとサバニ体験をしたり、資料館を見学したり。突然始まる上原謙さんの講話で、予定していた滞在時間をかなりオーバーしてしまうのですが、そんなことは全く気にならないくらいエキサイティングなお話です。ミーカガンを装着しながら、海人の勇姿をとうとうと語るチャームングなお人柄にほれ込んで、通っている人も少なくないはず。そして今年度は、その意思を繋いでいくべく、次世代の事務局の方々が奮起して、採択につながりました。たくさんのプログラムを開発して、ますます面白くなる糸満 海人工房・資料館に一度は行ってみたいですね！（平岡）

活動詳細

①山城久雄氏の鉛筆画を活用した講話プログラムの作成・実証

会場：糸満 海人工房・資料館（糸満市）

②海人文化を伝えるプログラムの開発・実証

- ・ロープワークチームビルディングプログラムの実証
 - ・障害児を対象としたサバニ乗船体験の実証
 - ・ホンモノどっち？プログラム（糸満市観光協会と連携）
 - ・パンタタカー体験の実証
 - ・団体向け体験プログラム（ジーパーレー、講話、古民家見学、食事）の実証
 - ・防災キャンプ
- 各会場：糸満市内各所

① 運営上の課題解決

② 文化芸術の享受者拡大

③ 地域の諸課題の解決

三線文化の普及連携事業

沖縄県三線製作事業協同組合

住 所 沖縄県那覇市安里 360-7 和光マンション1F
URL <http://okinawa34.jp/>

三線文化の伝承に対する危機感

沖縄県内で保有されている三線の数は、平成28年度に三線組合が実施した調査によれば約82万挺であるが、うち75%は比較的安価で購入できる外国産であることも同時に判明。いわゆる沖縄ブーム以降、外国産の三線はネット通販や沖縄土産の販売店などで急速に販売数を伸ばしていた。指導者に師事せず自己流で演奏する愛好者が増えるにともなって、演奏だけでなく三線や沖縄の文化、曲の背景など、これまで一般的だった伝承が希薄になっているのではないかと危機感を持った三線組合は、三線の末長い愛好につなげるべく、職人の立場から三線の歴史と文化を県内外に発信する取り組みを、平成30年度にスタートした。



札幌での無料三線体験

全国各地で県産三線の魅力を発信

初年度は職人による講話会や無料相談会、各地の三線指導者の協力を得た無料体験などを全国で行い、三線愛好者や三線に興味のある人々に直接働きかけ、県産三線の魅力発信の拠点作りを目指した。さまざまな連携先を得て取り組みが順調に進んだ札幌では、新しい取り組みとして、職人と演奏家が各立場から三線の魅力を伝えるクロストークも行った。そして平成31年2月、念願の拠点「三線組合札幌三線教室」の立ち上げが実現した。

2年目の今年度も各地での講話会などを継続。職人と演奏家のクロストークは特に好評で、組合が研究・復元した「琉球王朝時代の復元三線」と現代の三線の聴き比べや、現在活躍している演奏家3名の声の特性に合わせて制作した「アーティ



職人と演奏家のクロストーク終了後に関係者が壇上に勢揃い



各地で好評だった職人講話会。材料の蛇皮に注目が集まる

ストモデル」の演奏も含めたトークなど工夫を凝らし、新たな来場者に向けた情報発信に成功した。名古屋での拠点となる三線教室を立ち上げるなど、着実に前進する三線組合。県産の三線を奏でる愛好者が日本中に溢れる日をめざす。

プログラムオフィサーのコメント

三線組合の取り組みの中心になって奔走する、事務局長の仲嶺幹さん。お会いするといつも「林さん、いま考えているのはさー……」と、今後の活動の構想を話してくれます。組合の新商品のことや新しい販路について、職人の育成、若手実演家の活躍の場の創出などさまざま。アイデアは尽きません。講話会でも、職人としての経験から繰り出される興味深い話と明るい人柄が来場者を惹きつけ、終了後には必ず彼のまわりに人の輪ができます。事務局長の業務と職人としての三線作りとの両立は相当にハードですが、常に前向きな仲嶺さんのもと、組合の活動は今後ますます広がりを見せることでしょう。(林)

活動詳細

①県内外の演奏家と職人の連携強化

- ・琉球古典音楽「歌鎖」沖縄公演での職人が製作した三線による演奏、三線の展示、三線無料相談
会場：国立劇場おきなわ（浦添市）
- ・琉球古典音楽「歌鎖」、琉球舞踊「蓬莱」東京公演での職人が製作した三線の展示、三線無料相談
会場：紀尾井ホール（東京都）
- ・琉球古典音楽「歌鎖」メンバーによる職人が製作した三線を使用した演奏会での職人と演奏家のクロストーク、三線展示、三線無料相談
会場：壇王法林寺（京都府）
- ・京都市立芸術大学伝統音楽研究センター主催講座での職人と演奏家のクロストーク
会場：京都市立芸術大学
- ・三線組合主催展「受け継がれる三線の魅力」での職人と演奏家のクロストーク
会場：てんぶす那覇（那覇市）
- ・銀座わしたショップ「三線祭り」での職人と演奏家のクロストーク
会場：銀座わしたショップ（東京都）

②三線愛好者の拠点作りの調査

- ・三線無料体験 会場：イオンレイクタウン埼玉店（埼玉県）、朝日カルチャースクール名古屋校（愛知県）

③わしたショップがない地域の拠点づくりモデルプログラム

- ・三線無料体験、職人講話、三線展示
会場：浜松市楽器博物館（静岡県）

④拠点を維持発展するための札幌市での取り組み

- ・どさんこしまんぢゅフェアでの三線無料体験
会場：札幌駅前地下歩行空間
- ・三線組合札幌三線教室での職人講話と三線無料相談
会場：札幌市民交流プラザ
- ・三線組合イベント「三線世の響き」会場での三線展示、三線無料相談 会場：共済ホール

① 運営上の課題解決

② 文化芸術の享受者拡大

③ 地域の諸課題の解決

わした島子どもアート

一般社団法人 エーシーオー沖縄

住 所 那覇市首里汀良町 3-82-5 2F
メール sora@acookinawa.com
URL <https://www.acookinawa.com/>

すべての子どもたちに演劇を

エーシーオー沖縄は毎年夏に「りっかりっか＊フェスタ（国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ）」を開催。世界の優れた児童・青少年向けの舞台芸術作品を鑑賞できる機会を提供しており、県内でのイベント知名度も高く好評を得ている。

しかし実際に会場となるのは那覇市近郊で、他市町村での文化活動には差があり、特に現代の子どもたちに向けて創作されたコンテンポラリー作品に触れる機会はとても少ない。本団体は離島を含む那覇市外の地域にも優れた舞台芸術を届ける取り組み「わした島子どもアート」を平成29年度からスタートさせた。



言葉がわからなくても楽しめるノンバーバル作品「アナのはじめの冒険」

地域コーディネーターと連携 離島へも作品を届ける

「わした島子どもアート」では地域の子どもの文化事業に携わる関係者がコーディネーターとして会場選びや広報活動、当日の会場設営などを担う。現地をよく知るコーディネーターが企画することで、子どもたちが気軽に集まれる生活圏内での舞台芸術鑑賞の機会作りにつながっている。夏は南城市とうるま市で開催。先生に引率された地元の保育園児や幼稚園児の参加もみられ、普段なかなか触れることのない外国のパフォーマンスに子どもたちの目はくぎ付けになっていた。

7月にはシンポジウム「子どもたちとともに」も開催。韓国の児童青少年演劇に関わる専門家や沖縄の民話調査・伝承活動に携わる研修者を招き、



舞台芸術を創作すること、届けることについて国際的な意見交換が行われたシンポジウム



歌い踊り、大人も子どもも盛り上がる楽しい時間

子どもたちのための舞台芸術制作や作品を届けることについて意見交換が行われた。「りっかりっか＊フェスタ」期間中に開催されたこともあり、参加者からも国際色豊かな発言が飛び交った。

冬には、西原町と石垣市、宮古島市で沖縄の歌と踊り、わらべうたの公演を行った。石垣公演では地元出身のアーティストの出演もあり、大いに盛り上がった。宮古公演では地元の方が宮古の言葉で数え歌を実演する場面もあった。各地でそれぞれ工夫をこらした公演となった。

プログラムオフィサーのコメント

今年の夏公演のアンケートでも「那覇は子連れではとても移動しにくい、今回は連れていきやすかった」などのコメントが寄せられ、那覇以外での取り組みが実を結んでいます。また、継続実施となった受け入れ先の地域コーディネーターの皆さんとの連携はより密なものとなっており、本事業の意義や目的に共感し、協力して下さる方々との輪が広がりつつあります。(真栄城)

活動詳細

- ①「アナのはじめての冒険」公演
会場：あおぞら第2こども園（南城市）、生涯学習・文化振興センターゆらていく（うるま市）
- ②シンポジウム「子どもたちとともに」
会場：那覇市緑化センター
- ③「うたたい もーたい うちなーぬ わらべうた」公演
・沖縄の昔ばなし「火正月」
・沖縄のわらべ歌と踊り
・沖縄の今の歌
会場：那覇バプテスト教会（西原町）、大浜公民館（石垣市）、下地農村環境改善センター（宮古島市）
- ④地域コーディネーター連絡会議
・事業実施にむけた情報交換
会場：那覇市

① 運営上の課題解決

② 文化芸術の享受者拡大

③ 地域の諸課題の解決

映画を通じて異文化理解を深め沖縄の才能を育てる映画祭 〈KIFFO〉の長期運営基盤づくりと、自発的に行動する人 を育てるワークショップ関連事業

株式会社 ククルビジョン

住 所 那覇市泉崎 2-4-20 比嘉アパート 301
メー ル kiffo@kukuruvision.com
URL https://kukuruvision.com/kiffo/

映画から学ぶ感情を表すボキャブラリー の大切さ

ククルビジョンが主催する「こども国際映画祭 in 沖縄 (KIFFO)」は今年で6回目を迎えた。「映画はココロの栄養だ！」をコンセプトとして、多感な子どもの頃に、映画を通し世界を知ってもらいたいとの思いで実施する地域密着型の映画祭である。今年度は本補助事業を通して、映画祭の課題として常に残っていた「映画を通じた異文化理解や、自己および他者理解の場」を増やした。まず、映画の定期上映会後に「感想を語る会 (おしゃべり会)」を開催し、子どもたちの感想を引き出す時間を設け、語り合うことの面白さ、楽しさを実感してもらう。さまざまな感情を学ぶ絶好の機会である映画鑑賞を「面白かった」「楽しかった」で終

わらせるのではなく、どう感じたのかを表現するスキル向上は子どもだけでなく大人にとっても大切だ。ククルビジョンは合わせて大人のボランティアのための講座も開催。初対面の子どもたちでも、恥ずかしがらずに自由な意見を言い合える場になるよう、アクティブ・ラーニング専門の講師を招き、ファシリテーションスキルを習得した。

沖縄の才能を育てる子ども司会育成と吹き替え事業

60秒動画コンテストの「こども審査員」や上映会の「こども司会」を公募し、決定した審査員や司会はその役割について学び、成果発表まで主体的に練習を行った。

海外映画作品の吹き替え事業では、声優の選定



映画をみて感じたメモを読みあげる子どもたち



矢島晶子氏と県内の声優が共演



こども審査員による 60 秒動画コンテストのグランプリ発表

時から制作まで、プロとして活躍する声優・矢島晶子氏を迎えることで、声優の研鑽の場を設けた。沖縄県内には優秀な声優が多いものの活躍の場は少ない。その現状を変えるため、活躍と育成の場を創出している。

プログラムオフィサーのコメント

定期上映会後のおしゃべり会では、まず四コマ漫画風のワークシートに自分が一番印象に残ったシーンを絵で描き出し、その後そのシーンについて感じたこと気づいた事を発表します。なかにはうまく言葉が見つからずにジェスチャーで表現する子や照れてしまう子もいましたが、大人も交えて皆でその場を共有することが一人ひとりの貴重な体験となります。吹き替え事業では、字幕が読めない、ちいさな子どもにも良質の映画を届けたいという思いがあります。アフレコ収録は矢島さんのアドバイスが極めて丁寧で、息遣いや役者の心情、声色など、専門的な技術を学べる貴重な体験の場となっていました。(麻生)

活動詳細

- ①小さな映画祭を開催するにあたっての「感想を語る会（おしゃべり会）」の実施
 - ・ボランティアスタッフのファシリテーションスキルアップ講座
 - ・「感想を語る会」でのファシリテーション
 - 各会場：沖縄県立図書館（那覇市）
- ②沖縄の才能を生かす吹き替え事業
 - ・吹き替え作品の選定・制作
 - ・声優オーディションの開催
- ③こども司会、こども審査員の募集、育成
 - 上映会司会、60 秒動画審査員
- ④吹き替え作品イラン映画「自転車」上映、60 秒動画コンテスト発表会の実施
 - 会場：琉球新報ホール（那覇市）

① 運営上の課題解決

② 文化芸術の享受者拡大

③ 地域の諸課題の解決

まちなかコンサートを活用した芸術発信事業 宮古島まるごとミュージック!?

特定非営利活動法人 琉球交響楽団

住 所 浦添市安波茶 1-31-1 伊波ビル 202
メール ryukyu.sym@gmail.com
URL <http://www.ryukyusymphony.org/>

もっと身近にクラシックを!

琉球交響楽団は、「沖縄に本格的なオーケストラを」と平成13年に発足。沖縄県内各地で演奏活動に取り組んでいる。平成29年度より、身近にオーケストラを楽しんでもらおうと、本補助事業を受けて室内楽アンサンブル、室内オーケストラを編成するなどし、地域のニーズに即したプログラムを開発、提供してきた。

昨年度からは、宮古島市を中心に「まちなかコンサート」を開催。地域住民と楽団員の関係性が深まるなどし、ファンの新規開拓に成果をみせた。その手ごたえを受け、今年度は、多良間村と宮古島市の2地域で「まちなかコンサートを活用した芸術発信事業～宮古島まるごとミュージック!～」を実施した。



楽団を先頭に多良間中学校を出発し、公演会場まで行進

補助金終了を見据えた自走化の試み

「宮古島まるごとミュージック!？」は、その名の通り令和2年1月22日～24日の3日間、宮古島と多良間島のまちをまるごと琉球交響楽団がジャックするという事業である。

初日は宮古島市未来創造センター多目的ホールにて「0歳児からのコンサート」を開催。このコンサートは前年度のアンケートにて未就学児から入場可能なコンサートの要望に応え宮古島での初開催となった。

2日目は多良間島へ移動して「学校ミュージック」と題し、小学生、中学生それぞれが楽団の後ろを、歌ったり、楽器を鳴らしたりしながら公演会場である体育館まで一緒に行進した。公演はオーケストラと子供たちの合唱による共演で感動的なコンサート



指揮者に挑戦。曲目はカルメンより「トレアドール」



まちなかコンサートのようす（市役所ロビー）

を作ることができた。3日目は宮古島市内に再び戻り、15か所で「まちなかコンサート」を行った。

昨年度からの継続事業という事もあり、行く先々で演奏を心待ちにする方々が多く、着実なファンの定着化が図られた。

本事業では、「まちなかコンサート」に加え、将来の演奏家を育成すべく、宮古島市内の小中高生を対象に吹奏楽講習会を併催した他、団員向けにファンドレイジングの研修会を実施、団員のプロモーション能力の強化と、楽団経営に関する意識改革を試みるなど、補助金終了後の展開を見据えた取り組みを行った。

プログラムオフィサーのコメント

楽団の運営には、楽団員一人ひとりの経営感覚を高める必要があると高江洲事務局長は言います。琉球交響楽団の強みは、アンサンブルに分かれてまちなかに繰り出しても、それぞれが聴衆とコミュニケーションが深められるところ。今回、15年ぶりのCD制作に向け、初のクラウドファンディングにチャレンジするにあたり、資金調達のノウハウを学びました。支援額は、目標額を大きく超え、なんと500万円に上りました。もともと持っていた団員のコミュニケーション能力の高さが如何なく発揮された結果です。と同時に、沖縄を代表するオーケストラの一つとして、その期待の大きさを物語っているとと言えるでしょう。（樋口）

活動詳細

①研修会

- ・団員向けに、ファンドレイジングの専門家を講師に招き、資金調達などについて具体的な手法をまなび、実践に活かす
会場：浦添市中央公民館分館

②企業訪問

- ・まちなかコンサート開催に向けた地元企業との連携。事業終了後の継続開催に向けた基盤作り

③まちなかコンサート

- ・宮古島市内、多良間村内での20分程度のミニコンサート
会場：ショッピングタウン宮古、ゲオ宮古店、宮古空港ターミナル、島の駅みやこ、みやこ下地島空港ターミナル、沖縄県立宮古病院、あたらす市場、沖縄海邦銀行宮古支店、徳洲会伊良部島診療所、青潮園、沖縄銀行宮古支店、琉球銀行宮古支店、宮古島市公設市場、宮古島市役所、宮古島市立図書館、ひばり保育園、多良間保育所、萌木の里
- ・0歳児からのコンサート
会場：宮古島未来創造センター
- ・学校ミュージック
会場：多良間村立多良間小学校

④吹奏楽講習会

①運営上の課題解決

②文化芸術の享受者拡大

③地域の諸課題の解決

琉球料理をツールとして、沖縄の魅力を国内外に 発信できる子どもたちを育成するプロジェクト

RYUKYU カマDo! プロジェクト

住 所 那覇市寄宮 2-5-8 リプラハウス 203
メール info@ryukyu-kamado.com
URL http://ryukyu-kamado.com/

子どもたちが地元の食文化を学び、料理 を作り、情報を発信できるように

琉球料理は、独自性をもった食文化の一つである。しかし近年、食生活の欧米化などの影響を受け、琉球料理離れが加速している。そこで危機感をもった有志が集い、琉球料理普及継承を目的とした委員会を設立した。現在、委員会で「カマDo! 塾」の企画、運営を進めている。

カマDo! 塾の目標は、子どもたちが琉球料理の文化背景を知った上で、一品だけでもきちんと作れるようになり、食を通して沖縄の魅力を国内外に発信できる人材を育てることである。また、昨年に「アイスブレイク」「講座」「調理」「アウトプット」という一連の流れを確立し、講座の対象を小中学生としている。講座の内容について本年度は

6月に「県産食材を英語で伝える」異文化交流、9月は「物流と地産地消」をテーマに生活協同組合コープおきなわの倉庫見学を行った。2月は琉球歴史研究家の賀数仁然さんを講師に招き、おもてなしの心を知り、料理をする「うとぅいむち講座」を開催した。各講座それぞれ違った視点から食文化について学ぶ機会を創出している。

カマDo! 塾のこれから

本年度はカマDo! 塾の自走化を見据え、広報・告知活動、企業向け・個人向けの賛助会員制度の構築に向けて活動している。昨年まで無料開講していた塾の参加費を設定し、広報では琉球朝日放送の番組「十時茶（ジュージチャー）まで待てない」にて、カマDo! 塾に参加している子どもたち



県内で流通する野菜について学ぶ子どもたち



子どもたちが作るごはんを前に感動の保護者たち



沖縄ガス主催のおまつりでカマDo！塾の成果発表

が活動報告を行った。ほかに中城村と共催で人参加穫体験を開催。企業からの協賛も多く、沖縄ガスから会場や施設の提供、沖縄食糧や生活協同組合コープおきなわからはスタッフや食材の提供など、手厚い支援もいただき、今後はさらに企業連携を進めていく。これからも引き続き企業その他さまざまな地域・団体と連携し、活躍の場を広げてゆく。

プログラムオフィサーのコメント

「鶏肉が外国から来てるの?」「冷蔵庫でかい!」「宮廷料理って品数が多いすぎて食べきれない!」「ちんぬくジュシーって何?」カマDo!塾は、毎回子どもたちの疑問と驚きの声であふれています。琉球王国の外交の歴史や冊封使のおもてなしの宴、高温多湿の気候風土に対応するための知恵など、食文化を通して多角的に沖縄文化を学ぶことができるカマDo!塾は、子どもたちにとって多くの「発見の場」になっていることを実感します。最終年度を迎え、本事業の今後の継続に向けて、企業との連携も視野に入れた模索が続いています。食から沖縄の歴史・文化を学んだ子どもたち、この経験が大人になってから生きてくることでしょう。(麻生)

活動詳細

- ①カマDo!塾の開催にともなう広報・告知活動
 - ・「英語で沖縄食材を話そう!! kids ウェルカムちゅ活動」
会場：沖縄県総合福祉センター（那覇市）
 - ・「沖縄の流通について学ぼう!」
会場：コープおきなわ物流センター（西原町）
 - ・「島人参収穫体験&島人参を使った琉球料理を作ろう」
会場：吉の浦会館（中城村）
 - ・沖縄ガスまつりにて「第4回全国子ども和食王選手権」
成果報告会
会場：沖縄ガス本社ショールーム「ゆ〜くる」（那覇市）
 - ・「うとういむち講座」
会場：沖縄ガス本社ショールーム「ゆ〜くる」
- ②企業・個人向け賛助会員制度の構築に向けた調査・営業活動
 - ・企業ヒアリングを実施

① 運営上の課題解決

② 文化芸術の享受者拡大

③ 地域の諸課題の解決

社会的課題に向き合う演劇ワークショップ プログラム研究・開発

株式会社 TEAM SPOT JUMBLE

住 所 宜野湾市字宇地泊 751-7
メール info@spot-jumble.com
URL http://www.spot-jumble.com/

演劇をつかったコミュニケーションワークショップ

TEAM SPOT JUMBLE（以下、TSJ）は、簡単なシアターゲームや創作を通してコミュニケーションを促すことのできる演劇ワークショップを用いて、社会問題や課題解決に役立てるよう、プログラムを開発している。進行役の「ファシリテーター」は、参加者が自ら気づき、学べるようにサポートし、時には一緒に悩みながら、よりよい話し合いができるように働きかけていく。TSJは、本補助事業の前身である「沖縄文化活性化・創造発信支援事業」の支援を受け、ファシリテーター養成に取り組んだ。その人材を活かし、本事業ではさまざまな分野でのプログラム研究・開発を実施。今年度は、研究・開発や先行事例の視察・研修に積極的に参

加するとともに、これまでの事例や実施内容をもとに、紹介リーフレットを作成、ホームページもリニューアルして、情報発信・周知活動にも力を入れた。

「教育」「社会福祉」「離島・地域」「企業の 人材育成」の分野でプログラムを開発

小中学校でのリーダー研修、特別支援学級、離島地域や高齢者向け、子どもたちと大人と一緒に参加できるものなど、多岐にわたる内容で演劇ワークショップの研究・開発を進めた。県外私立中学高等学校と共同開発したワークショップは、実際の修学旅行で体験メニューとして実施した。聴覚障害を持つ方々ともワークショップを企画。経営コンサルタントからレクチャーを受け、研究・開



ファシリテーターと共に話し合う



創作したジェスチャーゲームを鑑賞する



シアターゲームで楽しそうに体を動かす子どもたち

発を進めている企業向けプログラムは、企業側のニーズや、アプローチのタイミングなど、新たな課題がみられた。

プログラムのブラッシュアップのために、県外の先行事例の視察・研修にも積極的に参加。今年度は、九州大学で行われた演劇と社会包摂の制作実践講座や、NPO 法人が主催する脳性麻痺の役者の皆さんと、食事・トイレ介助、車椅子への移乗などを実践しながら共に演劇作品をつくるワークショップに参加。また、ファシリテート技術の向上のために、日本劇団協議会が主催するエデュケーションワークショップにも参加した。

プログラムオフィサーのコメント

TSJの皆さんは、プログラムごとに研究・試作・実施・ふり返りをくり返し、試行錯誤しながらワークショップを生み出しています。そうやって、地域や団体ごとの特色や課題に合わせた内容となったワークショップは、演劇のさまざまな可能性を提示してくれます。子どもたちと大人と一緒に作品をつくることで異世代間交流のコミュニケーションが生まれたり、障害のあるなしに関わらず、言葉を越えた会話ができるようになったりするのです。これらの貴重な経験は、今後の取り組みにも生かされていくことでしょう。(真栄城)

活動詳細

- ①相談窓口の開設、周知活動
- ②ホームページリニューアル
- ③「教育」「社会福祉」「離島・地域」「企業の人材育成」演劇ワークショッププログラム研究・開発
- ④教育関係者、社会福祉関係の専門家との意見交換・勉強会
- ⑤県外他事業事例視察・研修
 - ・九州大学ソーシャルアートラボ「演劇と社会包摂」制作実践講座「障害からひろがる表現とケア」ともに創造するためのはじめの一歩」フォーラム参加（福岡県）
 - ・NPO 法人ニコちゃんの会「身体的にバラエティあふれる人たちとの演劇のつくり方」ワークショップ参加（福岡県）
 - ・公益社団法人 日本劇団協議会（文化庁委託事業 2019年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業 日本の演劇人を育てるプロジェクト）「エデュケーションワークショップ2019」参加（兵庫県）
 - ・PAVLIC 演劇ワークショップ 現場視察（福島県）
- ⑥演劇ワークショップ体験・事業報告会
会場：西原町福祉センター

① 運営上の課題解決

② 文化芸術の享受者拡大

③ 地域の諸課題の解決

川平村の祭事を支える古謡等の保存と地域文化の継承に向けた環境整備事業

川平公民館

住 所 石垣市字川平 901

古謡伝承のための環境づくり

石垣市のなかでもとりわけ古い歴史を持つ川平村では、現在でも公民館が中心となって今年間26もの行事が執り行われている。しかし、近年では高齢化の影響によって、祭事に欠かせない歌をかつては全員が歌えた状況から、現在では一部の高齢者のみが、ほそぼそと歌う状況へと変化してしまっている。村内には4つの御嶽(オン)があり、昔からの住民はそのいずれかに所属する。公民館の加入者は300名余りいるが、御嶽ごとに行われる祭祀の歌については、5、6名が口ずさめるほどである。「ユンタ」「ジラバ」「アヨウ」とよばれる古謡は、長らく「暮らしの中で自然と身につけていくもの」と考えられていたが、現代社会では伝承は難しいことが明らかになってきた。



『川平村の歴史』編集委員会のようす

そこで本事業では、カセットテープに残されている歌をデジタルデータ化し、計画的に練習の機会を設けることで、伝承の環境を整えることに取り組む。

地域誌を通して、伝統文化の理解を深める

昭和51(1976)年に出版された『川平村の歴史』について、沖縄県立芸術大学名誉教授である波照間永吉氏らとともに編集委員会を結成し、改編を行う。先人が村の歴史や祭事、行事、慣習についてまとめたものだが、短期間で作成されたこともあり、誤字脱字や不正確な川平方言の記述がみられる。本誌の修正と再構成を行うことで、現在の地域住民が活用できる本にすることを目的としている。これまで川平村では、御嶽及び公民館に所



歌の継承のため、「川平鶴亀節」の斉唱をはじめておこなった



「川平鶴亀節」の舞踊

属している地域住民のみで年間行事を引き継いできたが、本土からの移住者が増え続けている地域でもあり、行事の継承については、新しい住民と向き合わざるを得ない状況にある。村誌の改編とその出版が、住民が地域を知り、議論を深めるための一助になることを期待する。

活動詳細

- ① 『川平村の歴史』の改編
- ② 古謡が収録されたテープのデジタルデータ化
- ③ 古謡などの伝習

① 運営上の課題解決

② 文化芸術の享受者拡大

③ 地域の諸課題の解決

プログラムオフィサーのコメント

棒術や獅子舞とは異なり、素朴な古謡は地域の皆さんの関心をひくのが難しい伝統文化です。行事の直前には関係者が集中的に練習を行うものの、それ以外の期間に練習会を開いて多くの人へ継承していくというスタイルを作り上げていくのは、想像以上に時間がかかりそうです。村誌の改編は、編集委員会に携わった地域の方々、県立芸大の先生方の尽力があり、スピード感をもって進みました。先人が製作した本から大きく改編した点としては、川平方言の表記を統一した点です。かつては誰もが声に出していた言葉も、現在は暮らしの中で使われる頻度がとても少なくなっています。若い世代が受け継いでいくためには、正確に表記する必要があったのです。(平岡)

ジュニアジャズオーケストラによる 子どもの居場所づくり

一般社団法人 琉球フィルハーモニック

住 所 那覇市田原 1-12-6
メール jjo.nahawest@gmail.com
URL <http://ryukyuphil.org/>

活動がスタートして4年、ゆっくりと活動の輪が広がる

平成28年10月に始動した「ジュニアジャズオーケストラおきなわ那覇ウエスト」は、今年度で4年目を迎える。活動拠点である若狭公民館を中心として、那覇中学校区（若狭小学校、天妃小学校、曙小学校、那覇小学校、泊小学校）の小学生を対象に、週2回、練習会を行っている。本事業の大きな特徴は、「子どもの居場所づくり」でありながらも、プロのミュージシャンから直接指導を受けることができることだ。ジュニアジャズオーケストラを、対象地区を定め地域密着で取り組んできたことで、OBがフェロー（ボランティア指導員）として関わるようになり、地域の行事や集まりなどにも参加できるようになった。過去4年間の地

道な活動が、地域の皆さんに認知されつつあり、活動の輪がゆっくりと確実に広がっている。

「子どもの居場所づくり」としての目的を共有する

年2回、子どもの発達と子どもへの関わり方について学ぶ研修会を、講師やフェローを対象に実施している。子どもの居場所づくりとしての目的意識を共有するとともに、子どもたちを理解し個性をいかした活動につなげることを重視しているからだ。今年度は、「“気になる子”“発達の凹凸”について知ろう」、「子どもたちを取り巻く環境（貧困など）」をテーマに研修会を実施した。子どもたちが抱えている不安や葛藤に気づいてあげたい、というのは常に講師が抱えている思いでもある。



講師向けの研修会を実施



ふだんの練習会のようす



練習の成果を披露する発表会

講師によって子どもたちとの関わり方はさまざまだが、子どもの「居心地の良さ」を一番に考えながら、より良い環境を整備するため日々努力している。

プログラムオフィサーのコメント

琉球フィルハーモニックの活動の良いところは、関係者がジュニアジャズオーケストラの活動目的を共有していること、また研修会を通して活動のふりかえりと学びをくり返し、しっかりと取り組みに反映しているところです。本活動の維持継続のために、地域のまちづくり協議会に参加したり、地域の店舗などへ募金箱の設置協力を呼び掛けたりと、地域に積極的に関わりながら、ジュニアジャズを支える土台づくりや資金造成の仕組みづくりにも努めています。子どもたちは集大成を披露する発表会まで、1年を通して5曲マスターしていきます。自信あふれる演奏ができるまでに成長していく過程は感動的で、今後も応援していきたい活動です。(島袋)

活動詳細

- ①ジュニアジャズオーケストラ事業
 - ・週2回の練習会開催
 - ・発表会の開催
 - 各会場：那覇市若狭公民館
- ②子どもたちとの関わりにおけるプロのジャズ講師とフェロー育成事業
 - ・専門家講師を招いての研修会の実施
- ③地域との連携事業
 - ・地域在住スタッフの配置
 - ・地域行事への参加
- ④記録・広報事業
 - ・団員募集やフェローの募集など、チラシやポスターにて周知

①運営上の課題解決

②文化芸術の享受者拡大

③地域の諸課題の解決

祭祀を記録した写真による地域の精神文化創出に 資する事業

まぶいぐみ実行委員会

住 所 沖縄市中央 4-1-3 2F ギャラリーラファイエット内
メール rougheryet@gmail.com
URL <https://www.facebook.com/mabuigumi/>

写真の新たな意義、可能性の模索

撮影された写真には常に「被写体」と「撮影者」双方の関係性が生じている。たいてい、「撮影者」が風景や人物などの「被写体」を切り取る一方向の関係性である。

一方で、県内各所で行われる祭祀はどれもその土地に強くつながる精神文化の根幹となり、その独自性ゆえ、常に他者からの注目を集め、多くの写真家たちを魅了してきた。しかし昨今は生活文化の変化により、祭祀自体の継続は課題を多く抱えている。

本事業は、写真家を中心にしたまぶいぐみ実行委員会だからこそ、一方向になりがちな写真の「双方向」の関係性を構築する、新たな可能性を模索するものだ。当時の記憶が薄れつつある今、写真

の持つ「歴史の記録」や「現場の眼」に着目し、現場へ「返す」ことで、時代とともに消えゆく風習、精神文化の復興を目指したい。なお、1970年代から90年代にかけて比嘉康雄氏と上井幸子氏（両故人）によって、沖縄県内の各地で撮られた祭祀写真のネガが、まぶいぐみ実行委員会に管理をゆだねられることとなり、本事業は始まった。

思い出話であふれる展示会場、そして現場へ返っていく写真たち

今年度は八重山諸島に焦点を絞り、祭祀や地域を捉えた写真の展示会を宜野湾市と、石垣市、また、関連事業として与那国町でも開催。多くの地元マスコミが取り上げたことと来場者による口コミで、短い開催期間にもかかわらず、各会場は連日大賑



この事業をきっかけに開催された宮古島市狩俣での敬老会の写真展



ベタ焼きをデジタルアーカイブしているようす



来場者によって次々と貼られたふせん

わい。写真に撮られた同世代の方から、その曾孫世代まで、それぞれの思いを胸に写真と向き合った。

さらに、昨年度、宮古島市で展示したことをきっかけに、東京の国際基督教大学（ICU）の博物館で展覧会開催が決定したほか、宮古島市狩俣で数十年ぶりに祭祀が復活したり、石垣市の白保公民館で開催される「白保ゆらていく祭り」や、竹富島や小浜島の公民館などから次々と写真利用について問い合わせが来ており、「被写体」へと返っていく予定だ。

プログラムオフィサーのコメント

本事業を支えているのが強力なアーカイブチームの存在です。学習院大学などの研究者が集まり、比嘉邸で眠る膨大なネガの整理を行っています。ネガの劣化を防ぐための整理事業や、生前の日記やメモを頼りに、撮影日程や祭祀の内容を割り出すなど、細かい作業を大人数で黙々と。また、生前の上井氏のポートレートが比嘉氏の写真から見つかるなど、二人の関係性を記録から想像するのも楽しい時間。展覧会では、それらの写真に「これは石垣さん？金城さん？」「これは黒島じゃないよ」などと話しながら、来場者が次々と独自の最新情報をふせんに記入して貼っていきます。写真をきっかけにそれぞれの持つ記憶が共有され、次世代へ継承される貴重な機会となりました。（芦立）

活動詳細

- ①地域協力体制構築（写真展実行委員会づくり）
- ②八重山諸島からの移住者や歴史・文化関係者へ向けて「ときがみつめる八重山の祭祀 比嘉康雄・上井幸子 写真展」とシンポジウム「比嘉康雄アーカイブスの現代的意義」、「八重山の祭祀と写真」を開催
会場：佐喜真美術館（宜野湾市）
- ③八重山諸島の歴史・文化関係機関や各自治会、個人の協力を募り、石垣島での写真展巡回展とシンポジウム「八重山の祭祀と写真」を開催
写真展会場：石垣市民会館
シンポジウム会場：石垣市立図書館
- ④比嘉康雄氏の八重山諸島を中心とした祭祀の写真を整理、アーカイブ化
- ⑤宮古島市狩俣で敬老会に合わせて祭祀写真展を実施
会場：狩俣集落センター（宮古島市）

①運営上の課題解決

②文化芸術の享受者拡大

③地域の諸課題の解決

患者はアーティストになりうるか、職員はどうだ。 ～県北からアートで医療を後押しする～

医療とアートを考える会

住 所 名護市中山 59-13
メール mediart2019@yahoo.co.jp
URL <http://mediart2019.site/>

精神科医療現場で取り込まれる芸術活動を再定義する

沖縄県北部の精神科病院に所属する作業療法士が中心となり、「医療とアートを考える会」を立ち上げたのは平成 30 年 12 月。発足間もない同会であるが、県内の精神科病院や老人福祉施設などで、治療やケア、リハビリテーションの一環として取り入れられている芸術活動から生み出される「アート」の価値を社会化すべく活動を行っている。

今年度は、本補助事業を受けて、名護市立図書館での作品展や今帰仁村歴史文化センターのトイレ・アートギャラリー（halfwall + bathroom museum）にて展示、精神科医療の現場を捉えたドキュメンタリー映画の上映会、対談イベント、講習会、ワークショップなどを企画したほか、先

進的な活動に取り組む県外の福祉施設や美術館を積極的に視察するなどした。

「患者はアーティストになりうるか」

精神科医療で取り込まれる芸術活動は、その扱いが非常に難しい。医療現場での芸術活動は治療の一環でもあることから、作品展示において、医療上の守秘義務や治療方針などに留意しなければならない。治療を目的とした医療行為から生まれた作品の著作権はどこに帰属するのか、保管はどうするのか、作品公開に向けどのように本人と意思確認するのかなど、患者を「アーティスト」として扱う上での課題が山積みだ。

同会は、そうした医療現場ならではの課題を整理しつつ、カルテとは異なる精神科医療の変遷と



今帰仁村歴史文化センターのトイレでの展示



ドキュメンタリー映画上映会での対談のようす



著作権に関する講演会のようす

してのアーカイブに着手。同時に、著作権の講習会や知的財産権に関するワークショップを企画し、研鑽を重ねた。

今後は、県内外の団体ともネットワークを構築し、芸術活動が雇用（仕事）につながる可能性についても模索していきたいとし、恒常的な作品展示ができるスペースの開設をめざす。

プログラムオフィサーのコメント

医療とアートを考える会に参加する作業療法士の皆さんは、非常に多くの「問い」を持っています。「作業療法とは何か」「患者とは何か」「医療現場での芸術活動はアートといえるのか」「病気の時に作った作品を展示して大丈夫か」…。そうした問いは、「安易に答えを見つけようとするのではなく、問いを吟味し深めていくことに意味がある」。今回、同会が企画した「てつがくカフェ」で、臨床哲学プレーヤーの西川勝先生が投げかけた言葉です。同会の取り組みは、全国的にみても、ユニークかつ難易度の高い試みです。たんぼぼの家やクリエイティブサポートレッツといった先輩方に学びつつ、同会ならではの活動へと育っていくことに期待を寄せています。（樋口）

活動詳細

- ①過去作品のデータ収集整理、関連の情報収集、アーカイブシステムの構築の検討
- ②情報共有講習、施設見学、伝達勉強会の開催
 - ・「医療とアートと倫理の狭間 院内で制作された作品のトリセツ」勉強会
会場：名護市内ダンススタジオ
 - ・「てつがくカフェ」
会場：那覇市若狭公民館
 - ・「知財でポン！沖縄出前ワークショップ」
会場：ソーシャルハウスあごら（那覇市）、名護市立中央図書館
- ③視察研修と報告会とネットワーク作り
下記団体への視察研修およびネットワークづくり
視察先：袋田病院アートフェスタ（茨城県）、NPO法人クリエイティブサポートレッツ（静岡県）、はじまりの美術館（福島県）、NPO法人コーナス（大阪府）、NPO法人こえとことばとこころの部屋（大阪府）、やまなみ工房（滋賀県）、ボードレス・アートミュージアム NO-MA（滋賀県）、社会福祉法人グロー（滋賀県）、たんぼぼの家（奈良県）、エイブルアート・カンパニー事務局（奈良県）、鞆の津ミュージアム（広島県）、カフェ&ギャラリーてあ（岡山県）、グッドジョブ！センター香芝（奈良県）、art space co-jin（京都府）、もうひとつの美術館（栃木県）、ありがとうファーム（岡山県）
- ④造形ワークショップ、対談イベントの開催
 - ・映画「オキナワへいこう」上映会および当事者とのミニトーク
会場：名護市立中央図書館
- ⑤展示会
 - ・「そんなこんなな4人展」「うふふな mariko の夏の自我像」プロデュース
会場：今帰仁村歴史文化センター トイレ・アートギャラリー（halfwall + bathroom museum）
 - ・「想いの種展」タイアップ
会場：名護市立中央図書館
- ⑥短期アルバイト雇用の試み
- ⑦活字化

① 運営上の課題解決

② 文化芸術の享受者拡大

③ 地域の諸課題の解決

地域の8mm映像オープンデータ実証実験によるデジタルアーカイブ・ネットワーク推進事業

株式会社 シネマ沖縄

住 所 島尻郡南風原町字宮平 585 福まる店舗 3 階
メー ル info@cine-oki.jp
URL http://okinawa-archives-labo.com/

8mmフィルムの復元が200本を超え、なかには貴重なフィルムも

1950~70年代に普及した8mmフィルムだが、現在では使用されなくなり、多くが劣化・廃棄されている。家庭用の記録フィルムだから、テレビでは映されない地域の祭祀や家庭での風習・文化などが多く記録されている。そこに目をつけ、収集を呼び掛けたのがシネマ沖縄である。多くの方がその内容を共有できるように、デジタル化、ウェブサイトへのアップロードを行っている。平成29年度から収集し、現在アップロード数は200本を超える。中には、米国大統領アイゼンハワーの来沖のようすや、戦後沖縄の西洋画芸術に大きな功績を残した玉那覇正吉氏のアトリエでの活動のようすなどを収めた貴重な映像も発見された。収集活動が少しずつ認知され、保存していた映像を復元してほしいと持ち込みもで

てきている。今年度は、旗頭の復活に伴い、旗頭の制作のようすをデジタル化し、お披露目できたことが大きな話題を集めた。また、新たな取り組みとして、二十日正月に踊るジュリ馬フィルムの復元をクラウドファンディングで達成できたこともあげられる。話題集めと自走化のための資金造成を目的としたもので、2月14日にはお披露目会とトークショーを実施した。

医療施設や高齢者福祉施設での上映会の開催

今年度は、活用の可能性を模索するため、外出が難しい高齢者の方を対象に、医療施設や高齢者施設を訪問する出張上映会の開催を試みた。施設利用者の皆さんは、8mmフィルムが普及した時に子どもや青年であった方がほとんどであるため、記録映像を



「介護付有料老人ホーム ポート・ヒロック」での上映会



「8mm映画サミット in 沖縄」開催



二十日正月「ジュリ馬」復元映像お披露目会

実際に体験していた世代となる。上映会は、その時々
の情勢や流行などの解説を交えたもので、視聴者にも
意見や感想を聞き、会話をしながら進めた。映像
だと写真よりも視覚情報が多く、まるでタイムス
リップしたかのように当時の情景が思い返せるよう
で、「この時はこうだったんだ」と活発な発言が次々
に飛びだし、受け入れ施設の医院長や担当の理学療
法士も驚くものであった。また、立場が逆転したか
のように、施設利用者の方が職員へ教えようとする
ようすも新鮮であったようだ。職員も交え、わいわ
いと賑やかに楽しんでいた様子が印象に残る。

プログラムオフィサーのコメント

今回は初の試みとして、ハワイでの上映会を行
いました。ハワイ移民沖縄県系一世の映画プロ
デューサー渡口政善さんの記録映画フィルムを発
見したのがきっかけです。1932年頃のハワイや
沖縄の状況がわかる映像資料ということもあり、
直接関わった世代ではなくとも、参加者は声をあ
げて歓喜、懐かしみました。ヒアリング調査から、
フィルムの収集については信頼を築きながら地道
に進めていく必要があるのだろうと実感すると
ともに、参加者の笑顔を見て、保存の大切さを再
認識した上映会でした。上映会の最後に「どう
か、8mmフィルムを捨てないでください」と話す
真喜屋力さんの姿が記憶に残ります。(島袋)

活動詳細

- ① 8mmフィルムの収集・保存・デジタルアーカイブの公開
- ② 8mmフィルム上映によるアーカイブの啓発活動
- ③ 「8mm映画サミット」他府県のアーカイブとの連携
- ④ 海外のフィルムアーカイブと連携し、沖縄移民の文化を掘
り起こす
 - ・ハワイにて8mmフィルム上映会を実施し、取り組みの周
知と8mmフィルム収集の呼びかけを実施
- ⑤ 発見フィルムの復元による映像資料への啓発事業
 - ・クラウドファンディングによるジュリ馬映像デジタル化
 - ・「1965年のジュリ馬映像」デジタル化お披露目上映会
～地域記録のデジタル保存の重要性～の実施
 会場：沖縄県男女共同参画センター（那覇市）

① 運営上の課題解決

② 文化芸術の享受者拡大

③ 地域の諸課題の解決

沖縄戦・ひめゆり学徒隊の歴史を海外に伝える 展示プロジェクト

公益財団法人 沖縄県女師・一高女ひめゆり平和祈念財団立
ひめゆり平和祈念資料館附属 ひめゆり平和研究所

住 所 糸満市伊原 671-1
メール himeyuri1@himeyuri.or.jp
URL <http://www.himeyuri.or.jp/JP/top.html>

薄れゆく戦争の記憶、ひめゆり平和研究所の設立へ

ひめゆり平和祈念資料館は、平成 30 年に開館 30 周年を迎えた。元学徒であった島袋淑子館長が 29 年に退任されたことで、全職員が戦後生まれとなり、世代交代が本格化した。

非体験者の職員が、ひめゆり学徒隊の戦争体験を語り継ぐ上で、展示のリニューアルやワークショップなど、新たな取り組みに着手する必要性に迫られた。ひめゆり平和研究所の設立は、そうした次なる時代を見据えた取り組みの一つである。

ひめゆり平和祈念資料館は、県内からの訪問はもとより、県外から訪れる修学旅行生や観光客の来館が多く、平成 28 年には来館者数が 2200 万人に達した。その一方で、沖縄戦やひめゆり学徒隊

についての海外での認知度は低いという。そこで、世界的に広く知られるアンネ・フランク・ハウスが開発した映像ワークショップを試みるなど、外国人や若い世代に向けた平和教育を模索している。

ハワイでの聞き取り調査と大学との関係構築

本事業では、沖縄戦及びひめゆり学徒隊を海外に紹介する点に焦点を当て、今年度は、沖縄系移民の多いハワイでリサーチを行った。

ひめゆりの塔敷地購入資金を寄付して下さったハリー儀間氏の親族がハワイにおられることから、そこを足掛かりに、ハワイに移住された元ひめゆり学徒隊引率教員の親族や同じく移住され、いまでも健在の元ひめゆり学徒隊の方への聞き取り調



ハワイ最大級のローカルイベント「沖縄フェスティバル」にてひめゆりのパネルを設置



ハワイ大学付属ハミルトン図書館にてひめゆりのプロジェクトを説明するイベントを開催



マウイ沖縄県人会の方々への聞き取りと展示プロジェクトの説明

査、ハワイ大学との連携構築、沖縄フェスティバルでのパネル展示などに取り組んだ。

今年度のリサーチを踏まえ、海外へ発信する際、どのような展示やプログラムが効果的かを検証することにしている。

プログラムオフィサーのコメント

ひめゆり平和祈念資料館を訪れた人も多いことでしょう。そこには、動員された若い学徒の方々が、戦火の中で生きた証が、その営みが展示されています。元ひめゆり学徒隊の方々が語り継いできた体験を、これからは戦後生まれ世代が、同じく戦争を知らない世代に伝えていかなければなりません。こうした状況のなかで、どのようにこの責務を果たすことができるのかを考えるのが、平和研究所の役割だと思っています。ハワイでのリサーチでは、パールハーバーの歴史は知っていても、沖縄戦は知らないのではないかという仮説が立証されたそうです。一方向の戦争史観ではなく、創造的な活動を通じて共に学びあう平和教育の構築に向けた取り組みが始まりました。(樋口)

活動詳細

- ①ハワイの若者における沖縄戦・ひめゆり学徒隊の歴史認識に関する意識調査
 - ・ハワイの大学、高校、コミュニティセンターなどで、ハワイに住む若者に沖縄戦やひめゆり学徒隊の歴史の認知度や関心度をアンケート形式で調査
- ②ハワイに住むひめゆり関係者（元学徒など）への聞き取り調査、資料収集
 - ・ハワイ在住の元学徒や関係者に、戦後の生活や文化活動のヒアリングを行う
- ③関係施設の訪問、交流、協力依頼及びアニメ『ひめゆり』の上映
 - ・平和博物館や教育機関の取り組みを学び、施設同士の交流を図る
 - ・展示会への協力依頼
 - ・沖縄フェスティバルでのパネル展示など
 会場：ハワイ大学、ハワイ大学附属沖縄研究センター・ハミルトン図書館、東西センター、ハワイ沖縄センター、沖縄フェスティバルなど

① 運営上の課題解決

② 文化芸術の享受者拡大

③ 地域の諸課題の解決

移動式屋台型公民館を活用した地域住民主体の『つどう・まなぶ・むすぶ』創造拠点創出事業

特定非営利活動法人 地域サポートわかさ

住 所 那覇市若狭 2-12-1 那覇市若狭公民館内
メー ル info@cs-wakasa.com
URL https://cs-wakasa.com/program/

全国の公民館関係者から注目された「パーラー公民館」

那覇市若狭公民館（指定管理：NPO 法人地域サポートわかさ）に、「曙に公民館がほしい」と相談が寄せられたことから本事業が始まった。曙地区は、最寄りの若狭公民館まで、大人の足でも1時間と離れており、公民館や図書館などの公共施設が無いエリアだ。その要望を受けて、公民館の3つの機能「つどう・まなぶ・むすぶ」を実践する取り組みを、あけぼの公園を拠点に行うことになった。

拠点の設計と監修に、美術家の小山田徹氏を迎え、平成29年の夏、黒板テーブルにパラソルを立てた移動式公民館がお披露目された。戦後の青空公民館と、屋台のパーラーを組み合わせ、「パーラー

公民館」と名付けられた。全国の公民館関係者から注目を浴びるまで、そう時間はかからなかった。

「なにもしない」からこそ生まれた自発的な活動

パーラー公民館の目的は、地域住民の自主的、主体的な活動を育むことにある。パーラー公民館のスタッフは、基本的には「なにもしない」。地域の方々が、つどう場を設けることに注力した。とはいえ、ただ「なにもしない」わけではない。地域の方々の活動の参考となるようなワークショップを開催し、地域連携のきっかけを提案した。当初、困惑していた人たちも、おのずと公民館活動に協働して取り組むようになった。

パーラー公民館は、今年度で終了となる。実は、



作曲家の鶴見幸代氏による歌づくりワークショップ



ふだんのパーラー公民館の様子



あけぼの公園感謝祭での記念撮影

パーラー公民館は、計画段階から継続を目的としていない。パーラー公民館があり続けることで、地域の自発的な活動が生まれてこない懸念があったからだ。どう終わりを迎えるかが、活動のカギでもある。

地域の方々から、閉館を惜しむ声があがる。だが、残念がる声ばかりではない。既に、まちづくり協議会や子ども食堂の方々が率先し、その存続方法を模索し始めている。

プログラムオフィサーのコメント

あけぼの公園では、下は幼児から上は高校生まで、男女問わず、子どもたちが大人数と一緒に遊ぶ風景をよく見かけます。鬼ごっこでも何でも全員が遊べる工夫をしながら器用に遊ぶのです。曙の子たちは、人見知りもせず、「のど乾いた」「折り紙ない？」と、スタッフに話しかけます。高齢者の話に耳を傾ける子どもの姿も印象的。「なにもしない」ことが、こうしたつながりに役立っているのがわかります。曙で育ったことを誇りに思っており、願う、地域の方々の想いが活動を支えました。パーラー公民館がきっかけで生まれた地域の方々の自発的な活動は、これからもきっと続いていくことでしょう。(麻生)

活動詳細

- ①パーラー公民館（移動式屋台型公民館）通常開館
- ②おでかけパーラー公民館
 - ・グッピー保育園、就労継続B型作業所「がじまるの樹の下で」、放課後学習支援「寺子屋」、手話ダンスサークルなどに情報収集および情報交換
- ③あけぼのワクワクブログ開設・運営
<http://akebonowakuwaku.blogspot.com/>
- ④パーラー公民館開館@緑ヶ丘公園
- ⑤ワークショップ等、イベント開催
 - ・「ZINEをつくろう」、「地域のうたをつくろう！」「フルムーン映画会」
各会場：緑ヶ丘公園（那覇市）
 - ・「ご近所映画クラブ」、「うみそら上映会」
各会場：那覇市立曙小学校
 - ・「図鑑をつくろう！ vol.1 公園採集」、「図鑑をつくろう！ vol.2 さかさま BOX」
各会場：あけぼの公園（那覇市）、緑ヶ丘公園
 - ・「ちょこっと☆ハロウィン」会場：あけぼの公園周辺
 - ・「あけぼの公園かんしゃ祭」会場：あけぼの公園
- ⑥開発したワークショップの他地域展開
 - ・「ご近所映画クラブ」、「ほしぞら上映会」
各会場：まきら子どもホップステーション（石垣市）、真喜良第三団地自治会広場（石垣市）
- ⑦フォーラム・勉強会の開催
 - ・キックオフミーティング 会場：那覇市立曙小学校
 - ・勉強会「公民館のあしたを考える。～臨床の現場の取り組みに学ぶ」
会場：那覇市若狭公民館
 - ・「パーラー公民館祭り！」 会場：那覇市若狭公民館
- ⑧報告書「パーラー公民館の3年間 2017-1019」作成

① 運営上の課題解決

② 文化芸術の享受者拡大

③ 地域の諸課題の解決



写真提供：特定非営利活動法人 ハマスキー

沖縄アーツカウンシル

平成 31 年度沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業 支援事業事例集

発 行 日：2020 年 3 月 15 日

発 行 行：沖縄県

写 真：支援事業者提供

デザイン・印刷：株式会社ヒラヤマ

企 画・編 集：公益財団法人 沖縄県文化振興会

〒 901-0152

沖縄県那覇市字小禄 1831-1 沖縄産業支援センター 6 階 605 号室

TEL 098-987-0926 / FAX 098-987-0928

E-MAIL info-oac@okicul-pr.jp

<http://okicul-pr.jp/oac/>
